

日本地衣学会 No.155

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次

会務報告	599
日本地衣学会第18回大会（大阪府立大学・I-siteなんば，2019年7月 13-14日）報告／古田 雅一	599
国会記事	603
日本地衣学会第18回大会に参加して／谷川 寛典	603
日本地衣学会第18回大会に参加して／上田 菜央	604
お知らせ	605
ニュースレター編集委員会からのお知らせ／坂東 誠	605

会務報告 *Reports of the JSL Activities*

日本地衣学会第18回大会（大阪府立大学・I-site なんば，2019年7月13-14日）報告

Report of the JSL 18th Annual Meeting at Osaka Prefecture University, 13-14 July 2019 / by FURUTA Masakazu

>>>>>>> 古田 雅一：第18回大会実行委員長，大阪府立大学 大学院 工学研究科

日本地衣学会第18回大会を2019年7月13日と
14日の2日間，大阪府立大学・I-site なんば（大阪府
大阪市浪速区敷津東）にて，以下の要領で開催いたし
ましたので報告します。

* * *

日本地衣学会第18回大会（大阪）

- ・日時：2019年7月13日（土），14日（日）
- ・場所：大阪府立大学・I-site なんば2階（C1 カンファレンスルーム）
- ・参加者：33名（一般会員22名，学生会員6名，他5名）

* * *

7月13日（土）

10:00-12:00 評議員会

13:00-14:00 総会

14:00-15:45 シンポジウム「文化財の微生物制御」

14:00-14:05 古田雅一（大阪府立大学）「はじめに」

14:05-14:35 河崎衣美（檀原考古学研究所）「屋外の石造文化財に付着する地衣類の対策」

14:35-15:05 浜田信夫（大阪市立自然史博物館外来研究員）「日本の仏像などのカビ被害の現状と対

策」

15:05-15:35 土戸哲明（大阪府立大学）「エジプトの文化財のカビ汚染及びその制御」

15:35-15:45 総合討論



図1. 河崎氏によるシンポジウムの様子.



図2. 浜田氏によるシンポジウムの様子.



図3. 土戸氏によるシンポジウムの様子.

15:50-16:50 一般講演

座長：河原秀久（関西大学）

15:50-16:05

[1] 中島啓光（電気通信大学共通教育部）：地衣類に含まれる金属とクロロフィルのベースライン濃度

16:05-16:20

[2] ◯谷川寛典*・木下薫*・坂田歩美**・原光二郎***・原田浩**（*明治薬科大・**千葉県中央博・***秋田県立大）：日本産海岸生地衣類のLC/MSによる化学成分の分析と分類への応用（2）～*Lecidella* sp.を中心として～

16:20-16:35

[3] ◯木下薫*・谷川寛典*・坂田歩美**・原光二郎***・原田浩**（*明治薬科大・**千葉県中央博・***秋田県立大）：日本産海岸生地衣類のLC/MSによる化学成分の分析と分類への応用（3）～*Enterographa* sp.を中心として～

16:35-16:50

[4] ◯川上寛子・鈴木千尋・松井敏生・原光二郎・小峰正史・山本好和（秋田県立大生物資源）：培養地衣菌及び地衣内生菌が産生する抗酸化活性成分の探索と同定

18:00-20:00 懇親会（チャコールグリルパーラーオーケスタ:大阪府大阪市浪速区敷津東）



図4. 1日目の一般講演の様子.



図5. 懇親会の様子 (1) .



図6. 懇親会の様子 (2) .



図7. 懇親会の様子 (3) .

7月14日(日)

9:30-10:30 一般講演

座長：川上寛子(秋田県立大学)

9:30-9:45

[5] °河崎衣美*・松井敏也** (*奈良県立橿原考古

学研究所・**筑波大学)：石造文化遺産への影響評価のための地衣類の水溶性有機酸の溶出と分析方法の検討

9:45-10:00

[6] °YANG Ji Ho, OH Seung-Yoon & Hur Jae-Seoun (Korean Lichen Research Institute, Sunchon National University) : Comparison of endolichenic fungal diversity using culture-dependent and culture-independent approach

10:00-10:15

[7] °KIM Wonyong, JEONG Min-Hye, PARK Sook-Young, KIM Jung A & HUR Jae-Seoun (Korean Lichen Research Institute, Sunchon National University) : Search for secondary metabolite gene clusters via metabolic and transcriptional profiling of lichen-forming fungi

10:15-10:30

[8] °原田浩*・原光二郎**・坂田歩美*・木下薫*** (*千葉県立中央博物館・**秋田県立大学・***明治薬科大学)：日本産海岸生地衣類の種多様性解明と同定ツールの開発(2)

10:45-11:30 一般講演

座長：坂田歩美(千葉県立中央博物館)

10:45-11:00

[9] °中髙裕之*・山西菜々子*・福盛可奈*・山本好和** (*久留米工業高等専門学校・**大阪市立自然史博物館外来研究員)：日本各地で採集されたアリノタイマツとその周辺土壌藻について

11:00-11:15

[10] °OH Seung-Yoon & HUR Jae-Seoun (Korean Lichen Research Institute, Sunchon

National University) : Biogeographic patterns of foliicolous lichen *Strigula multiformis* in South Korea and Japan based on the population genetic analysis

11:15-11:30

[11] ○小竹ひとみ*・清水公徳*・原田浩** (*東京理科大学基礎工学部生物工学科・**千葉県立中央博物館) : 日本産の *Cladonia ramulosa* は *Cladonia rei* か?

11:30-12:00 一般講演

座長 : 坂東誠 (大阪市立自然史博物館外来研究員)

11:30-11:45

[12] ○山本好和*・盛口満**・KONDRATYUK Sergij Y.*** (*大阪市立自然史博物館外来研究員・**沖縄大学・***Lab. Lichenology & Bryology, M.H. Kholodny Institute of Botany) : 日本産ダイダイゴケ科地衣類(1). *Laundonia ryukyuensis* と *Fauriea yonaguniensis*

11:45-12:00

[13] ○坂田歩美*・原光二郎**・原田浩* (*千葉県立中央博物館・**秋田県立大) : イソクチナワゴケ *Enterographa leucolyta* (広義リトマスゴケ科地衣類) の分類学的再検討

12:00 - 12:15 閉会式・学生発表賞の授与



図8. 2日目の一般講演の様子.

* * *

1日目は評議員会, シンポジウム, 総会, 一般講演, 懇親会が行われました。総会では2018年度事業報告や2019年度事業計画等の報告・審議が行われました。

シンポジウムは「文化財の微生物制御」と題し, 公開シンポジウムとして一般の方々にも聴講できるようにいたしました。本シンポジウムは近年問題となっている遺跡や歴史上貴重な保存資料の微生物汚染による劣化に焦点を当て, 日本地衣学会会員の河崎衣美, 浜田信夫両先生と長年防菌防黴の分野で活躍されてきた土戸哲明先生にそれぞれの専門の立場から, 屋外の石造文化財の地衣類汚染の現状と対策(河崎先生, 図1), 仏像などのカビ汚染の現状と対策(浜田先生, 図2), エジプト古代壁画のカビ汚染と対策(土戸先生, 図3)について時宜お話を伺うことができました。

1日目の一般講演では地衣及び地衣内生菌を対象とした成分の分析と分類への応用, 有用抗酸化活性成分などの探索など, 4件の発表がありました(図4)。

夕方からの懇親会は, 最近再開発が進む会場近くの南海電鉄のガード下に位置するライブカフェ「チャコールグリルパーラーオルケスタ」で開催され, 和やかな情報交換の場となりました(図5~7)。

2日目の一般講演では分類, 生態, 遺伝子解析, 環境応答など9件の発表がありました(図8)。特に韓国から3件の発表があり, 国際的な研究交流ができたことは印象深く感じました。今後はこのような活動が拡がることを強く期待しています。なお, 講演要旨は「Lichenology」誌に掲載されると思いますので, そちらを参照して下さい。

閉会式では学生発表賞の授与が行われ, 小竹ひとみ氏(東京理科大学基礎工学部生物工学科)と Ji-Ho Yang 氏(Korean Lichen Research Institute, Sunchon National University)の2名にB賞が授与

されました(図9)。その後、散会となりました。

なお、本大会の収支は表1のとおりで、領収書および余剰金は会計幹事の川上寛子先生に引き渡しました。

最後に、本大会の開催に当たりご協力をいただきました会員の皆様方、また大阪府立大学・I-site なんばの関係者の皆様方に厚くお礼申し上げます。



図9. 表彰者記念撮影

左：小竹ひとみ氏，中央：原田浩会長，右：Ji-Ho Yang 氏

表1. 大会収支

1) 収入

項目	種別	徴収額(円)	人数	小計(円)	備考
大会参加費	一般会員	4,000	22	88,000	
	学生会員	1,000	6	6,000	
	非会員一般	8,000	2	16,000	
	非会員学生	3,000	1	3,000	
	他	0	2	0	高校生1名、招待演者1名
	合計	-	33	113,000	
懇親会費	一般会員	6,000	19	114,000	
	学生会員	0	6	0	
	非会員一般	8,000	0	0	
	非会員学生	0	1	0	
	他	0	1	0	招待演者1名
	合計	-	27	114,000	
総計	-	-	-	227,000	

2) 支出

項目	細目	単価(円)	数量	小計(円)	備考
会場費	会場借用等費	47,460	一式	47,460	大阪府立大学・I-site なんば(C1・S3)
懇親会費	飲食等費	151,500	一式	151,500	チャコールグリルパーラーオルケスタ
文具費	マルチカード購入費	280	一式	280	エーワン
	名札入れ購入費	108	5セット	540	名札イベント用ひも吊り
余剰金	-	-	-	27,220	日本地衣学会予算へ (会計幹事の川上寛子先生に引き渡し)
総計	-	-	-	227,000	

日本地衣学会第18回大会実行委員長 古田雅一 / 日本地衣学会第18回大会実行委員会計担当 坂東誠

本会記事 JSL Activities

日本地衣学会第18回大会に参加して

My Impression for the 18th Annual Meeting of JSL at Osaka Prefecture University, July 2019 / by
TANIKAWA Hironori

>>>>>>> 谷川 寛典：明治薬科大学 薬学部 薬学科 5年

今回初めて地衣学会の大会に参加させていただきま
した。

私は生薬学研究室に所属し、日本の海岸に生育する
地衣類の化学成分の研究を行っています。地衣類を知

ったのは、ちょうど研究室に配属が決まる頃のこと、まだ知ってから2年も経ちません。研究テーマを選んだ理由も、分析機器のLC/MSという機械を使いたいという理由からで、当初は地衣類にそれほど関心を持っていませんでした。しかし、地衣類の生態や種の多様さを知るに連れ興味を持つようになり、秋田県立大学名誉教授の山本好和先生が主催する地衣類観察会に参加するほどになりました。

シンポジウムでは、文化財に付着する地衣類やカビを、基物を傷つけずに処理する方法などの講演があり、文化財を長期的に汚染から守ることの難しさを知る一方で、菌類の生命力の強さも知ることができました。

一般講演では、地衣類に含まれる金属の濃度についての講演や、DNAや地衣成分による種の同定など様々な講演があり、地衣類研究を幅広く知る良い機会となりました。

私は今回の地衣学会の大会に参加するまで、自分が調べている地衣成分の研究がどのように役立つのかいま一つ分かっていませんでしたが、千葉県立中央博物館の原田浩さんの発表を聴いて、自分の研究の役割を再確認することができました。

懇親会では、たくさんの先生方や同世代の方々との地衣類に関することや、そのほかの話題について話すことができ、楽しい時を過ごすことができました。

最後になりますが、研究を始めて約1年半、日本地衣学会第18回大会で発表できたことを嬉しく思います。今後さらに研究を進め、詳細な成分について検討を行い、分類に役立てられればと思っています。今大会を通して、お世話になりました先生方、サンプルを提供して下さいました千葉県立中央博物館の方々に心より感謝申し上げます。

日本地衣学会第18回大会に参加して

My Impression for the 18th Annual Meeting of JSL at Osaka Prefecture University, July 2019 / by UEDA Nao

>>>>>>> 上田 菜央：京都大学 農学部 森林科学科 2年

2回目の参加となった今回の大会は、私にとって刺激的な二日間となりました。

「なぜ学部生が一人で来ているのか？」と思われた方もいらっしゃると思うので、簡単に私と地衣類との“なれそめ”を書き添えたいと思います。私は、神戸高校の総合理学科というところでSSHのプログラムに参加していました。この学科では二年生で、生徒が考えたテーマを一年間探求する課題研究がありました。私は、2年上の先輩方の影響で一年生の頃に地衣類を知りました。そしてウメノキゴケの抗菌成分の新しい使い方を考えたいと思うようになり、二年生の時

には、ウメノキゴケの生育地大気汚染度と抗菌成分含有量との関係について調べ、その後、将来は地衣類を研究したいと思うようになりました。その夢を、最近始まった特色入試で語って大学に合格し、今に至っています。去年は一般教養科目が主な授業となっていました。現在は専門科目の授業が多くなり、森林やそこに生息している生物について様々な分野を勉強しています。

日本地衣学会には去年からお世話になっておりますが、今回の大会は前回よりも理解できた部分が増え、少し成長できたのではと感じることができました。ま

た、木材腐朽菌など現在学んでいる分野の話も聞くことができ、楽しんで参加することができました。一方で、まだ私には知識が欠けているところが多いことを痛感しました。次回の大会までに、書籍などで少しずつ学んでいきたいです。

実は、今回の大会は期末テスト直前ということもあり、参加を迷っていました。しかし、前回は大学の授

業の関係で一日目しか行けなかったため、二日間学べる今回の参加を決めました。結果的に、私としてはテスト勉強よりもはるかに良い時間を過ごせたので、とても満足しています。十代最後に貴重な経験ができました。大会を運営して下さった方々やお話をしてくださった皆様、ありがとうございました。今後ともよろしくお祈りします。

お知らせ *News and Announcements*

ニュースレター編集委員会からのお知らせ

From Editorial Board of the JSL Newsletter / by BANDO Makoto

>>>>>> 坂東 誠：ニュースレター編集委員長

電子メールで投稿した原稿が記事になるまでの流れについてのお知らせ

ニュースレター編集委員会では、会員の皆様からの原稿を随時募集しており、電子メールでの投稿をお願いしておりますが、投稿後の原稿がニュースレターの記事として掲載されるまでには、いくつかの工程（校閲、編集など）を経る必要があります。それら工程のなかには、投稿者による確認作業なども含まれています。投稿者による確認作業などが、どの工程段階で必要になるのか、あるいは何回必要になるのかは、投稿された原稿の内容などによって変わりますが、それに係わる、投稿後の原稿がニュースレターの記事として掲載されるまでの大雑把な流れ（ただし、あくまで原則的な流れであり、その流れは時として変わる場合もあります）を以下にお知らせします。

* * *

- ① 投稿された原稿は、ニュースレター編集委員が、その内容などを確認します。
- ② ①の結果、原稿の内容などについて不明な点や、原稿中に修正等の検討が必要な部分などがあった場

合には、その内容をニュースレター編集委員会から投稿者に連絡します。

- ③ 投稿者には、ニュースレター編集委員会からの連絡内容について検討をしていただき、その返答をニュースレター編集委員会にさせていただきます。
- ④ ③の返答をニュースレター編集委員が確認し、さらなる不明な点や、修正等の検討が必要な部分があった場合には、その内容をニュースレター編集委員会から投稿者に連絡します（③に戻る）。
- ⑤ ①または③の結果、ニュースレター編集委員会が②または④の措置を不要であると判断した場合には、その原稿をニュースレター編集委員会が体裁を整えながらニュースレターの記事に組み入れる作業をします。
- ⑥ 次に、ニュースレター編集委員などの関係者が、⑤によって出来上がったニュースレター（案）を最終確認しますが、通常は投稿者にもニュースレター（案）を示したうえで、投稿者の記事について最終確認をしていただき、その確認結果をニュースレター編集委員会にさせていただきます。

⑦ ⑥の最終確認の結果を踏まえて、ニュースレター編集委員長がニュースレター（案）を修正することなくニュースレターの完成とするか、あるいはニュースレター（案）の一部に小さな修正など（例えば単純な誤字修正・字体修正・記載発行日修正など）を行ったうえで、ニュースレターの完成とするか、またはニュースレター編集委員長が⑥の最終確認の結果に基づきニュースレター（案）の一部または全部について修正など（例えば大幅な本文修正・体裁修正など）を行ったうえで、ニュースレター編集委員などの関係者による最終確認をやり直すか、などを判断します。

⑧ ⑦の結果、ニュースレター編集委員長が「ニュースレターが完成した」と判断した場合には、所定の手続きを踏んで、そのニュースレターを発行・公開します。

* * *

以上が、投稿後の原稿がニュースレターの記事として掲載されるまでの大雑把な流れですが、投稿者による確認作業などが必要となる可能性のある工程は、③や⑥などです。投稿者の皆様には、ニュースレター編集委員会より確認作業をお願いすることとなりますが、その際にはご協力をお願いします。

◆原稿募集

本誌は、会員からの原稿を随時募集しています。地衣類にまつわるエピソード、思い出、あるいは地衣類に関する写真とタイトル、簡単な説明文だけでも受け付けます。電子メールにて次のアドレス宛に投稿御願います：
bandomakoto@aa6.mopera.ne.jp（坂東 誠）

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、図書館も著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体からの許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会。

Tel: 03-3475-5618. Fax: 03-3475-5619. E-mail: naka-atsu@muji.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.
Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the Japanese Society for Lichenology.

Except in the U.S.A.: Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC).
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052
Japan. Tel: 81-3-3475-5618. Fax: 81-3-3475-5619.
E-mail: naka-atsu@muji.biglobe.ne.jp
In the U.S.A.: Copyright Clearance Center, Inc. 222
Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA. Phone:
(978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 155, pp. 599-606: eds. Bando M., Kawasaki E., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 18 Sep. 2019.

日本地衣学会ニュースレター155号

発行日：2019年9月18日

編集：坂東誠・河崎衣美

発行者・発行所：日本地衣学会

〒830-8555 福岡県久留米市小森野1-1-1

久留米工業高等専門学校 生物応用化学科内

©2019日本地衣学会 (© 2019 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。